

# 共同通信社杯で鎖骨を骨折した石原颯 「寛仁親王牌には間に合わせるつもりです」



同期の山口拳矢が共同通信社杯で優勝した姿を、石原颯は病院で見ていた。2日目に落車して、左鎖骨を骨折。「調子の波が底という感じで…。それを安定させるのが課題です」。競輪選手になって、きついのは同期と比較されることだと話す。エッ、この企画もそうなんです。申し訳ありません。

中学、高校と陸上8種競技の選手。スポーツが好きで、競輪を初めて見たのが2016年の立川グランプリ。稲垣裕之の男気先行を、村上義弘が3コーナーで番手まくりを打って勝ったレースだ。これを見て、選手になろうと決めた。

初のG1は前回の菊池岳仁と同じく8月のオールスター。4走して、1勝、2着1回、9着2回。2着は鐘前からの先行で、小倉竜二に差された。勝ったのは3走目。アクシデントがあったが、後方に置かれながら、ホームから仕掛けて、前を捕らえている。僕のイメージは、早めに前へ出て、そのま

まペースに持っていく先行選手。そう聞いたら、「カマシの方が得意です」。ということは伸びしろはまだまだまだたくさんあるということ。楽しみ。

俺のこのを見てくれ！は何？。速攻で「先行しているところ」の返事。ラインで決めることを信条にしていますとも。

この親王牌がG12回目。「1回出たくらいでは、まだまだ雰囲気慣れていません」。これから何十回となく経験を重ねて強くなっていくんだな。鎖骨骨折だから、出場はどうかなど思っていたけど、「しっかりとケガを治して、力を出し切ります」。まだ21歳、身長170cmの先行選手は、讃岐うどんよろしく、こしがある。こういう締め、気恥ずかしい。

▽弥彦競輪 寛仁親王牌

世界選手権記念トーナメント

それいけ117期 第3話

【新潟スポーツ 信氏 忠】

